

Bird's Eye 首都圏の景観

手前を横切り成田に向う高速、右手に箱崎エアターミナル

隅田川を下ると永代橋、中央大橋、大川端リバーシティー21高層ビル群



市民 プレス



SHIMIN PRESS

1月5日 第43号

発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」

編集人 原 昭二

制作・印刷 デジタル工房

FAX 048 (476) 9111

〒353-0004 埼玉県志木市本町 5-19-15

市民の目線で市民が発信する地域情報紙

WEB SHIMIN

<http://shimin.camelianet.com>

CONTENTS

-PAGE 1 Bird's Eye 首都圏の景観

お知らせ 発行日変更など

-PAGE 2 Global Mindの「地球市民」
イラン紀行(後編)

-PAGE 3 Bird's Eye 東京もの語り
景観 隅田川の橋梁 その二 中央大橋

-PAGE 4 地域のメディアの先駆
「埼玉タイムス」から「ニュータイムス」へ
町立志木商業学校の追憶 その二

今も広大な緑地は
防衛庁の管理下で
Off Limitsのまま……
解かれるのは一体何時?

左下は新座市西堀の
米軍大和田通信所

埼玉県県土整備部県土
づくり企画室の「新河岸川
景観プロジェクト」で市民
から推薦された優れた景観

右下は朝霞市の
里山風景(宮戸橋付近)

緑と水の原風景

お知らせ
このたびニュータイムス社のご好意により、同社の情報誌「ニュータイムス」をご購読されている読者に、本誌「市民プレス」を同梱・配布して戴くことになりました(お申し込みは「ニュータイムス社」TEL. 048-486-6138 FAX. 048-471-3240 E-mail. newtimes-net@nifty.com にごうぞ)

本紙発行日の変更…本年一月から年四回発行となります(二、四、七、十月、各月五日)



新座市栄妙音沢の湧水

クリエイティブ・ブック
「首都圏人」シリーズは、NPO「市民フォーラム」が編集し、発行所…(株)ヒューマン・クリエイティブ、発売元…ブックキング、**全国書店で発売中**、「アマゾン」「楽天ブックス」などのネットでも購入できます。

空撮・カラー・特集記事のオムニバス

本紙が責任編集する **Creative Book**

第2期の Creative Book いよいよ発売

第9号から「ビジュアル新書版」となります



- 1号 先端のサイエンス・テクノロジー
- 2号 東京駅 / ヒトの英知は何処からきた?
- 3号 東京大学 は知の頂点を目指す!
- 4号 江戸から東京 江戸城築城から皇居へ
- 5号 大名庭園 浜離宮恩賜庭園、清澄庭園
- 6号 アロマセラピーのサイエンス
- 7号 江戸城完工 甲良家の遺産は語る
- 8号 山手線誕生の物語

B5版 100ページ(カラー50ページ) 定価 各630円

みやかわ(宮川書店)本店に全巻常置されています
志木市本町1-11-32 TEL: (048)487-1112

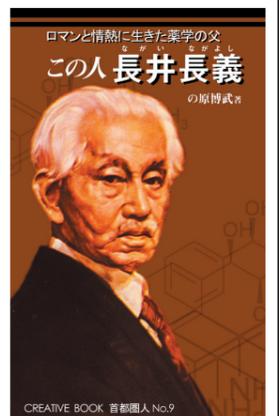
1期8号完結



208ページ新書版 定価945円
明治政府初めての海外留学生のドラマに充ちた米欧見聞書翰を初公開
ライン河畔で少女への恋、帰国後漢方薬のマオウから「エフエドリン」発見の偉業

の原博武著

「首都圏人」第9号
幕末に生まれ海外へ留学
化学・薬学の基礎を作った
ロマンと情熱の志士「この人長井長義」





遠い国、近い国のことを
もつと知りたい・・・
そこに住む人々の暮らしを
理解したい・・・

イラン紀行

【後編】

深瀬 克

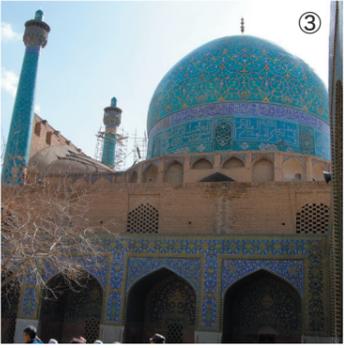
10・イマーム広場

「イランの真珠」とも呼ばれる都市イスファハーンには、モスクを中心にイスラム文化の華が集中してある。「イマーム広場(後継者の広場)」は、イラン革命以前は「シャー広場(王の広場)」と呼ばれていた。革命後名前が変えられたが、いざれにしろイランを代表する象徴的な場所である。広場は縦510m・横は163mの長方形で、二階建ての回廊で囲まれている。この回廊に接して、外側に二つの寺院と宮殿が建っている。これらは17世紀前半、サファヴィー朝アッバース一世によって建てられた。その圧倒的なスケール、緻密な装飾、意表をつくデザインは、ローマのヴァチカン宮殿に勝るとも劣らないものだと思える。

「青の都」と呼ばれるウズベキスタンのサマルカンドでモスクを見たとき、私は思わず「素晴らしい！」と感嘆の声をあげた。その時隣にいた女性が、



『イランのモスクはもつとすごいですよ』とささやいた。そのこともあつて私はイランを訪ねたのだが、その言葉どおりの期待に込められるものであった。ペルシャ人は想像以上に緻密な感覚を持った人たちだ。絹製の絨緞は日本で買う値段の三分の一だと言うが、一平方メートルほどの物が20万円近い価格なので買う者はいなかった。絨緞博物館では、名品の展示とともに製作実演をしていた。名品は1cmの幅の中に80本ものタテ糸が打ち込まれているので、光線の具合で虹色に輝いていた。中にはタテ糸が百本もあるものも展示していたが、現在ではここまでのレベル



さ10mに及ぶ「クセルクセス門」があり、貢物を献上しに来た諸国の人達は、まずこの門で威圧感を受けたに違いない。牡牛に噛み付くライオン



ケメネス朝ペルシャの王ダレイオス一世が建築に着手し、その子クセルクセス一世によって完成されたと言う。日本では縄文時代から弥生時代へ移行する頃のことである。行政上の首都は別にあり、ここは宗教的な都として築かれ、即位式や祭儀など重要な儀式は全てここで行われたと言



うところだろうが、ペルセポリスは草がほとんど生えていない廃墟であった。ペルセポリスの東北約100kmの所パサルガダルにアケメネス朝を起したキュロス二世(大王)(在位BC550~530年)の墓がある。彼は有能な戦略家であっただけでなく、支配下の民族



言う「バビロン捕囚」である。しかしBC539年バビロニアはペルシャ帝国(キュロス大王)に滅ぼされ、バビロンに捕らわれていたユダヤ人たちが

の戒律「正しい考え・正しい言葉・正しい行い」と言う言葉が書かれてあった。仏教における「八正道」と共通する内容である。中に入ると奥に「不滅の法灯」が燃えていた。私はすぐに、比叡山延暦寺根本中堂にある法灯や高野山金剛峯寺奥の院の法灯



は解放され帰国を許された。現在イスラエルはイランを仇敵としているが、2500年前は何と恩人だったのである。12・ゾロアスター教(拝火教)ゾロアスター教は、われわれ日本人の日常からは全くかけ離れたものだが、初めて身近に感じさせてくれたのは松本清張の『奈良二月堂の「お水取り」の行事の時の松明は、ゾロアスター教の影響を受けたもの』との説を聞いたときだった。ゾロアスター教はササン朝ペルシャ(3~7世紀)の国教であった。正倉院御物の中にササン朝ペルシャから到来したカットグラス製の「白瑠璃碗」がある。清張はカットグラスと同時にゾロアスター教もやってきたと見たのだろう。テヘランにある国立考古学博物館に正倉院にある「白瑠璃碗」と全く同型のカットグラスが展示してあった。これを見て、私はシルクロードの東端は長安(現在の西安)ではなく奈良であったと確信した。さて、ヤズドにあるゾロアスター教のお寺に行くと、入口前面の壁の上部に、「ゾロアスター教の神の姿」と、守るべき三つの戒律「正しい考え・正しい言葉・正しい行い」と言う言葉が書かれてあった。仏教における「八正道」と共通する内容である。中に入ると奥に「不滅の法灯」が燃えていた。私はすぐに、比叡山延暦寺根本中堂にある法灯や高野山金剛峯寺奥の院の法灯



水葬は行わず、鳥葬が行われてきた。ヤズド郊外に「沈黙の塔」と呼ばれる男性用と女性用の50x60米(メートル)の岩山があった。頂上は直径20米ほどの円形の皿状になっており、さらにその中心部に直径3米、深さ1米程の穴があった。死体をこの穴に置くと、ハゲワシが来てたちまち食べてしまったそうだ。チベットで行われていたように、死体を切り刻んだり頭蓋骨を割って、鳥たちが食べや

高さ20m、36本の石柱で支えられていたと言うが、そのレバノン杉はどこからどうやって運んできたのだろうか。石は隣接する岩山から持ってきたことは判明しているが、杉材については解らなかった。この大宮殿はBC331年、アレクサンダー大王により焼き落とされ、廃墟と化した。日本では「夏草やつわものどもが夢の跡」と言

に對し、高潔で寛大で慈悲深い指導者でもあった。彼は自分を土着の支配者の合法的な後継者であるとして既存の組織を尊重し、ゾロアスター教を強要せず各民族の宗教を認めた。この占領統治政策はダレイオス一世(大王)にも引き継がれ、彼も被征服民族の言語・慣習・宗教の保持を認めた。さらにこの統治政策はアレクサンダー大王にも引き継がれた。こうして広大な大帝国が成立したのである。ひるがえって『大東亜戦争』における日本の占領政策を見ると、正反対のことをしてきた。さらに最近のアメリカの世界戦略も、相手のことよりも自分の利益に合致することのみを要求しているように見える。人は歴史を知ること

は解放され帰国を許された。現在イスラエルはイランを仇敵としているが、2500年前は何と恩人だったのである。12・ゾロアスター教(拝火教)ゾロアスター教は、われわれ日本人の日常からは全くかけ離れたものだが、初めて身近に感じさせてくれたのは松本清張の『奈良二月堂の「お水取り」の行事の時の松明は、ゾロアスター教の影響を受けたもの』との説を聞いたときだった。ゾロアスター教はササン朝ペルシャ(3~7世紀)の国教であった。正倉院御物の中にササン朝ペルシャから到来したカットグラス製の「白瑠璃碗」がある。清張はカットグラスと同時にゾロアスター教もやってきたと見たのだろう。テヘランにある国立考古学博物館に正倉院にある「白瑠璃碗」と全く同型のカットグラスが展示してあった。これを見て、私はシルクロードの東端は長安(現在の西安)ではなく奈良であったと確信した。さて、ヤズドにあるゾロアスター教のお寺に行くと、入口前面の壁の上部に、「ゾロアスター教の神の姿」と、守るべき三つの戒律「正しい考え・正しい言葉・正しい行い」と言う言葉が書かれてあった。仏教における「八正道」と共通する内容である。中に入ると奥に「不滅の法灯」が燃えていた。私はすぐに、比叡山延暦寺根本中堂にある法灯や高野山金剛峯寺奥の院の法灯

を思い起こし、「ゾロアスター教は異質な宗教」との思いから、「どの宗教も共通点が多い」との思いが溢れてきた。しかしながら死体の葬り方を聞くと違和感を感じざるを得ない。ゾロアスター教では、火・土・水は神聖なので火葬・土葬・

すい様にする風習は無いとのことであった。鳥葬はパーレビ王朝による近代化政策により70年ほど前に禁止され、今では土葬が行われているとのことであった。

13・アラビア文字の書道

書道は日本や中国のように漢字を書く人たちがだけのもではなく、カリグラフィー(Calligraphy)という言葉があるように、世界中にあるように、アラビア文字の書道でも、日本の「楷書・行書・草書・隷書」のような書き方があるらしい。16世紀にイラン書道史上最大の書家ミール・エマードという人がいたそうだ。

イマーム広場の回廊にあるバザールの店先に、多分「特売」とか「大安売り」とか書いてあるのだと思うが見事な書体の張り紙広告があったので、思わずシャッターをきった。実に美しい、みごとに書だと思った。



14・チャランポラン

日本で普段使われているペルシア語は「バザー(市場)」が有名だが、カーキ色の「カーキ」もペルシア語で「土」の意味だそう。驚いたことに「チャランポラン」もペルシア語だとの説がある。「チャンポン」は長崎ちゃんぽんを連想し、「混ぜる」と言うオランダ語だと聞いたことがあるので、チャランポランもそんな所かと思っていた。ためにインターネットで調べてみると「チャラホラ」の音便で「チャラ」は「口からでませに言うこと・差し引きゼロにするこ

と」、「ホラ」は「洞・ウソのこと」とくどくどと説明があり、最後に「ペルシア語に“charand parand”という語があつて、意味も全く同じ」と出ていた。どうやら、全くの偶然のようだが、これもチャランポランかな?

15・現地ガイド
イラン旅行中の現地ガイドは、45歳の日本語の先生だった。彼は日本語の読み書きもでき、専門用語を使った高いレベルのガイドができるとのプライドを

持っており、私が次々に発する質問に対し真面目に答えてくれて、大変ありがたかった。

16・見ると聞くでは大違い
私が短期間で見たイランの人たちは、新聞やテレビなどのメディアから得ていた情報とは、まるで正反対の印象であった。私が見たのはイランのほんの一部分にすぎないが、一般市民は決してイスラム原理主義者ではなく、若者たちには宗教離れが着実に進んでいると見えた。イラン人はアメリカと親密な時代を経てきているので、何とアメリカ文化へのあこがれを持っている者も多い。見ると聞くでは大違いであった。

17・イランの一般庶民に戦争したいと思つている者は無く、何事も無く穏やかに暮らすことを願っているが、このことはイランだけでな

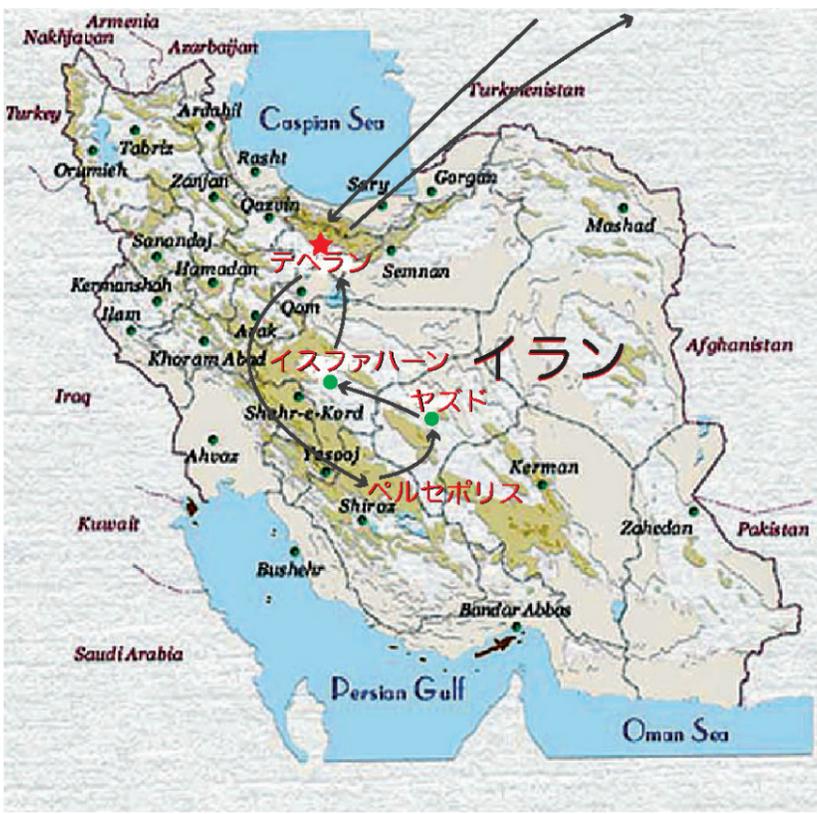
した。それに対し彼は、『今朝15名を解放し、彼らはすでにイギリスに向かつて出国した。英米と戦争したいと思つている国民は一人もいない。そんなこと思つているのは国の指導者だけだ』と言つた。さらに、『5年後には、政教分離しているだろう』とも言った。私は、アメリカ(またはイスラエル)が制裁や攻撃を仕掛けなければ、イランから手をだすことは無いだろうと思つた。

このとき、もし電話の内容を盗聴されていたら相手の身辺に危険が及ぶのではないかとその危惧を感じた私は、彼に大丈夫か確認した。彼の『大丈夫だ』との答えを聞いて、イランには想像以上に言論の自由があるのだと理解した。

く全ての国の一般庶民に共通することである。自爆テロはイスラム教だから発生するのではなく、命・生活・財産が奪われる時、どこでも発生しうるのだ。日本にも「特攻隊」と言う自爆攻撃があつた。イラン旅行を通じて、「自分の利益・主義主張」や「国益と言う大義名分」のために「他人の命や生活を奪う」ことがある限り、自爆テロは減



写真 ①イマーム広場のモスク ②寺院正面の鍾乳石飾り ③高さ54mの礼拝堂トーム ④タイルの模様 ⑤絨毯の製作 ⑥謁見の間(ペルセポリス) ⑦クセルクセスの門(ペルセポリス) ⑧地方の子供たち ⑨ゾロアスター教の「不滅の法灯」 ⑩ゾロアスター教寺院 ⑪鳥葬が行われた沈黙の塔 ⑫香辛料店の張り紙 ⑬喫茶店の前にて ⑭テヘラン国立博物館を見学する小学生 (2007年7月12日記す)



Bird's Eye 東京もの語り

景観隅田川の橋梁その二

中央大橋

仁愛に溢れた扱いは彼等の心に響き、数々の美談を残した。その跡地が明治時代には監獄となり、さらにこれが東鴨に移転していった歴史を紐解くとき、感慨は無量になる。その跡地に今度は石川島造船所が創設され、わが国最初の西洋型造船所からは、鉄製の船舶や鉄橋の橋桁が次々と製作された。河口の埋立てはさらに進み、またも造船所が移転した後は、なんと都内屈指の巨大ビル群が生まれたのであつた。激動はつづく。曲線美を誇るモダンな「中央大橋」はこれを対岸の旧「霊岸島」と結ぶ。セーヌ川と隅田川が友好河川となり、パリ市から贈られた彫刻が傍らに立つ。橋の塔の先端に飾られた兜は、かつて石川島を「兜島」と呼んでいたことによる。

中央大橋の上空から、超高層ビル群の大川端「リバーシティー」と中央大橋を一望する。隅田川流域のもっともドラマティックな景観である。ビル群が建つ旧石川島には、江戸時代の後期に、浮浪者、犯罪人を収容して更生させる「人足寄場」があった。その設置を提案した「長谷川平蔵」は、知る人ぞ知る池波正太郎の小説「鬼平」のモデルである。奇場人足たちの更生のために平蔵の

中央大橋

地域メディアの先駆!

「埼玉タイムス」を讀んで

地域紙「埼玉タイムス」が発刊されたのは、昭和二十二年(1947)三月のことである。

その頃の世相を振り返ってみよう...

終戦の直前まで、わが国は軍国主義一色、人々は物資欠乏の生活に耐えていた。徴兵制度で出征し、中国、南方の戦線などで戦死、または負傷した方々の数は日を追って増大し、ついには本土決戦も近づいていた。

原子爆弾の投下、東京を始めとして、大都市への焼夷弾攻撃、ポツダム宣言受諾による終戦は、その一年半前のことで、焼土と化した都市の復興こそ焦眉の急であった。

当時の新座地域一帯はどうだったか? 朝霞市、和光市地域には、軍人の被服、軍靴などをつくる被服廠をはじめとして、火薬・砲弾を作る工場、貯蔵庫、また新座市には海軍の無線基地が置かれていた。終戦の直前には、朝霞、和光市にかけての畑地に陸軍予科士官学校が移転してきた。現在の練馬区的光団地は、首都東京を防衛するための飛行場で、戦闘機が砂埃を上げて飛び立っていた。

戦後わが国の復興は文化的な活動から、が合い言葉だった。『埼玉タイムス』は、岩下英隆

たちの地域紙の発行は執念とも言うべきものであった。

「埼玉タイムス」社主となった岩下英隆の凄さは、報道に対して正義感に徹していたことであろう。

しかし印刷する紙は極度に払底していたので、新聞を発行することは容易なことではなかった。もちろん自治体の「広報」などは皆無であり、ラジオはあってもまだテレビは無く、民間のメディアに目を向ける余裕も無かった。

町立志木商業学校の設立から廃校まで、その運命を書き残した記事は、いま市民プレスの編集人には、市民に対するの遺言のようにさえ思われるのである。

「ああ！志木高校 哀しき末路」とのタイトルで社説を掲げた岩下英隆の

町立志木商業学校の追憶 (その二)

左は「埼玉タイムス」第58号(昭和二十三年十月三日)より転載



率直な気持ちはいまも我々の心に響く。その一部分を讀んでみよう(このページの左端に全文を転載した)。

弔鐘の悲曲!

敗戦の日本がその祖国を再建し得る道はただ一つ教育文化の復興による文化国家としてののみであり、武器なき国家としての日本にとつて唯一の発展の道である。...

埼玉タイムスから「ニュータイムス」への展開!



埼玉タイムス創設者岩下英隆は、昭和五十三年(1978)急逝したが、長男・英和が代表に就任し、平成七年(1995)まで刊行された。しかし二代目が亡くなって半世紀にわたる幕を閉じ、2317号をもって終刊した。

敗戦後の日本がその祖国を再建し得る道はただ一つ教育文化の復興による文化国家としてののみであり、武器なき国家としての日本にとつて唯一の発展の道である。...

あゝ！志木高校 哀しき末路 廃滅の跡を辿る

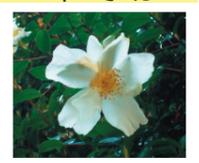
日協協会は存続を決定した。その後の志木町は分離問題に組上りた。昨年十一月廿二日の町政史上かつてない大混戦。...

埼玉タイムスから「ニュータイムス」へ

特定非営利活動法人 NPO「市民フォーラム」 この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行って、市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。



明治三十六年「志木小学校」のモダンな校舎として落成した(写真は祝賀会の様子)。この校舎の前に、中庭を隔てて、二階建の校舎が増築されたのは昭和九年ころで、それ以後この写真の校舎は旧校舎として「高等科(二年制)」に使われていたが、新設された「志木商業」の一年生はここで授業を受講した。



山茶花(サザンカ) 椿の仲間、ツバキには学名に 'japonica' が付いていて、日本の原産、欧米でも人気は抜群です。

TEL0900(3)044(8)55002 編集部 原宛にどうぞ